

各位

公益財団法人 豊田理化学研究所
常務理事 菊池 昇

「第39回 豊田理研懇話会」開催のご案内

第39回豊田理研懇話会を、下記の予定にて開催させていただきます。
今回は、2022年度イグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞された千葉工業大学 松崎元教授にご講演をお願いしました。皆様の参加をお待ちしております。

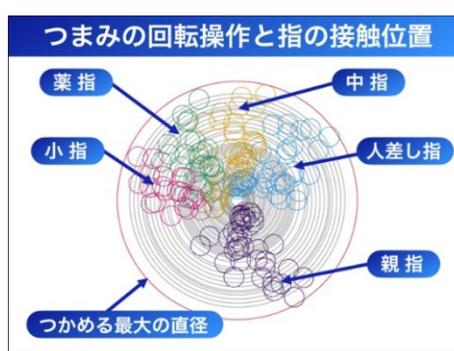
日時 2026年3月11日(水) 13:00~14:40
会場 豊田理化学研究所 井口洋夫記念ホール内 井口ホール+オンライン
主催 公益財団法人 豊田理化学研究所
協賛 株式会社 豊田中央研究所

講師 松崎元氏 MATSUZAKI Gen

千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 教授
一般社団法人フェーズフリー協会 理事

演題 「境界を超える価値創造のデザイン」
Design for Creating Value Beyond Boundaries

概要 機能と形態、使用時と非使用時など、デザインは二元論的に捉えることで理解しやすくなる一方、使用者の状況や使用環境においては、両者を明確に分断することはできず、それぞれ連続的な関係性を持っている。本講演では、まずイグ・ノーベル賞2022工学賞を受賞した「円柱形つまみの回転操作における指の使用状況に関する研究」を起点に、人が無意識に行う操作と設計との関係について紹介する。さらに、これまでに実践してきた家具、寝具、鞆、折り畳み自転車などのデザインを通して、相反する状態や機能を融和する考え方を例示する。後半には、近年注目されている日常時と非常時の連続性に着目した「フェーズフリー」の概念とその可能性について、デザインの視点から考察する。



ABSTRACT : Design is often easier to understand when we categorize it into binary pairs, such as function and form, or use and non-use. In reality, however, the user's circumstances and environment are not so clearly divided; they exist as a seamless continuum. In this lecture, the starting point is a study titled "Research on Finger Usage in the Rotary Control of Columnar Knobs," which received the Ig Nobel Prize for Engineering in 2022. Through this study, the relationship between unconscious human actions and design is introduced. The lecture then presents examples from practical design work, including furniture, bedding, bags, and folding bicycles, to show ways of harmonizing opposite states and functions. In the latter part, the lecture explores the concept of "Phase Free," which focuses on the continuity between "in daily lives" and "in irregular situations," a topic that has gained attention in recent years. The possibilities of this concept are discussed from a design perspective.

聴講申込み先： < <https://forms.gle/Zvm2jCwqbiExjxseA> >

*会場聴講とオンラインの選択制です。



豊田理研事務局 E-mail: riken@toyotariken.jp (3/2(月)〆切)

<講演者紹介>

『言われてみればそうだけど、誰も気にしなかったような些細な発想』が
新たなアイデアの原点となります。



松崎 元 教授

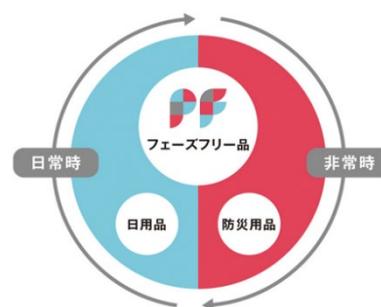
Profile

イグ・ノーベル賞 2022 工学賞 受賞者
千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 教授
一般社団法人フェーズフリー協会 理事

1972年東京都生まれ。千葉工業大学大学院工学研究科工業デザイン学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。1999年に発表した論文「円柱形つまみの回転操作における指の使用状況について」が、イグ・ノーベル賞2022「工学賞」を受賞。大学院在学中にカッセル大学(ドイツ)へ留学し、帰国後、ドイツのデザイン会社と国内メーカーをつなぐ役割を担い、オフィス家具のデザインに従事する。大学院修了後は、母校である千葉工業大学で教育・研究活動をする一方、家具、寝具、文具など、身近な生活用品のプロダクトデザイナーとしても活動し、7件のグッドデザイン賞を受賞している。また社会的活動として、日常時と非常時の区別をなくし、暮らしの中に防災を組み込む新しい考え方「フェーズフリー」の普及・推進に取り組んでいる。現在、一般社団法人フェーズフリー協会理事、日本インテリア学会理事、日本デザイン学会代議員を務める。



グッドデザイン賞を受賞した、無印良品の
「折って使える長まくら」



フェーズフリーとは：日常生活で便利なモノやサービス、設備などを、非常時にも役立つようにデザインし直していこう、という考え方です